

令和3年3月吉日

保護者の皆さま

校長 今野 隆

御 礼

すばらしき生徒たち 親身になっていただいた保護者・地域の皆さま

チームワーク最高の教職員に囲まれ、励まされ

人生で最高の3年間を過ごさせていただきました 心より御礼申し上げます

桜の開花が間近となり、希望の春の足音が聞こえます。

さて、私事ながら、この3月31日をもちまして、定年退職となります。保護者の皆さま、大変お世話になりました。23歳でこの道に進み、37年間が経過しました。今思えば、あっという間の年月でしたが、数多くの生徒と関わり合い、保護者の方々と笑ったり、喜び合ったり、自分自身の至らなさで苦しんだり、生徒を傷つけてしまったのではないかと悩んだり、辞めたくなくなったり、でも子ども達の姿に幸せを感じたり、その繰り返しの日々でした。

私は平成30年4月に長町中学校の校長として赴任し、3年間お世話になりました。以前に2年間教頭として務めたこともあり、地域の方々に「帰ってきたんだね。よかったね。」とお声を掛けていただきました。その当時、授業も担当していたため、卒業生も「教頭先生、帰ってこられてよかったですね。」と話しかけてくれたことを本当に嬉しく感じていました。地域の方々にとって、そして当時の生徒たちにとっては、私は今も「教頭先生」のままです。それがまたとても嬉しく感じられました。

平成30年4月、校長としての着任式の朝、生徒たちの校歌合唱が体育館に響き渡りました。とても素晴らしい歌声に圧倒され、感動し、「生徒たちの素晴らしさはあの時のままだ」と思いました。授業、生徒会活動、学校行事、部活動、何を取り上げても生徒たちの活躍はめざましく、若いエネルギーと可能性の塊であることを嬉しく思っていました。しかし、一方で、様々な事に悩んでいる生徒も数多くいました。その悩みが時代を追うごとに深刻になり、複雑になり、「生きづらさ」を感じているのではないかと心配になりました。

時代が、優しさや寛容さ、そして良い意味での厳しさを奪っているように感じます。セーフティネットも脆弱になっているのではないかと心配です。そして、若者たちを支えていかなければならない大人自体に余裕がなくなっているのだと思います。世の中や社会が殺伐とした空気に覆われてしまうと、社会の一番弱い部分にしわ寄せがいきます。それが今を一生懸命に生きようとしている、まだ力を持っていない子ども達にふりかかっているとすれば、手厚く守ってあげなければいけません。私たちの社会は子ども達を守ってあげられるような社会になっているのだろうか、と疑問を感じる事が多々あります。「子ども達を守る」ということは、甘やかすこととは違います。時には寄り添い、時には厳しさをもって接し、時に見守っていく。でも自分は、校長として子ども達を守ってきたのだろうか・・・。

純粹で正義感が強く、しかし間違った行為もしてしまう思春期の子ども達を、よりよき方向に導いていくのが、私たちの役目であるならば、私たち大人が進むべき方向性をしっかりと分かるように示してあげて、教職員も保護者の方々も地域の方々も一体となって、子ども達の未来が少しでも明るくなるように、大人同志が対立することなく、いがみあうことなく、手を取り合って進もうとする姿勢を見せる事が大切なのだと感じます。イライラせず、一歩引いて見守りながら、すぐに助ける準備をしておく、しかしそれを恩着せがましい態度で見せつけたりしない。大人が笑い、楽しみ、一緒に進もうとすると、きっと子どもは安心して進めるのだと思います。

その事を私は、長町中学校の保護者の方々から学びました。私たちの教育活動をいつも静かに、

そして温かく見守っていただき、しかも様々な活動をお手伝いしていただける、そんな保護者の方々のご協力、ご支援があって、私たち教職員は頑張れました。そして私自身、とても励まされました。親切で温かく、素敵で保護者の方々に出会えた事は、私にとってかけがえのない大切な心の宝物になりました。大袈裟に書いているのではありません。いつも心温かいお声を掛けていただき、私たち教職員は前に進む事ができました。そして私自身が勇気を持って前を向けました。

新型コロナウイルスの感染状況は、落ち着くどころか、さらに深刻になってきています。しかしながら私たちの長町中学校は、地域の方々のご配慮と保護者の方々のご協力、そして生徒一人一人の意識の高さが際立っています。今年度、本校で生徒の活動を手伝ってくれていた学生さんが「長町中から感染者が出ないのはなぜなのかよく理解できます。他の学校と意識が違います。私は複数の学校にお手伝いに行っていますが、長町中は、ちょっと違います。」と話してくれました。その意識の高さはご家庭それぞれで情報を収集し、子ども達とよく話し合っていたいただき、行動を抑制していただいたり、学校に協力していただいたりしているからこそだと思っております。この状況下で1年間感染者がまったくなかったことは、偶然ではないのだと感謝しております。

新型コロナウイルスの感染は世界を変えてしまったように見えます。しかし、それを克服するために子ども達自身も一生懸命に努力しました。静かに食事する、グループ活動も声を控えめにする、合唱は距離を確保してマスクをして歌う、体育祭は密にならないように学年事に実施する、それでもダンスはみんな企画し行う、予餞会はビデオ撮影して3年生に送る、一つ一つが変わっていったように見えますが、彼らの企画力、表現力、行動力等は何も変わっていません。いやそれ以上に深化し、進化しています。生徒も保護者の方々も、そして教職員も、みんなで「命を守るため」に頑張りました。何か大きな試練に遭遇すると、人間はただ後ずさりするのではなく、頭を働かせ、知恵を出し合い、協力して、新しい何かが生まれるのだということも学びました。それは、長町中学校の生徒達が教えてくれた事です。

今年度卒業した3年生は、修学旅行を実施することはできませんでした。実施の可否を問うアンケートで、ある一人の生徒が次のように応えてくれました。「私は、修学旅行にすごく行きたいし、修学旅行だけでも・・と思いますが、もし学校の友達や先生、または自分がコロナウイルスに感染してしまったら、また長い間、学校に行けず、友達にも先生にも会えなくなる日々が続くことになります。そんなの嫌です。先生方が色々試行錯誤して私たち3年生に少しでも思い出を残そうとしてくれているのを無駄にするようで本当に申し訳ないです。ですが、修学旅行に行けなくても、行事がほとんどなくても、その分、先生や友達に会えることを感謝しながら、1日1日を大切に過ごします。修学旅行や他の行事の分、校内でイベントをちょっと多く開催した方が安全で、安心して楽しめます。できればそうするのが良いと思っています。ご検討よろしく願いいたします。」涙が出ました。そして、生徒達を苦しめてしまう感染症を恨みました。同時に子ども達の命は絶対に守らなければならない、という決意も新たにしました。しかしながら生徒達は、はるかに私達大人を越える強い気持ちを持って前に進み、この学び舎から飛び立っていきました。

新しい年を迎えます。昨年は2ヶ月遅れのスタートでした。感染状況が収束に向かい、今年こそ、4月に新しいスタートを切ってほしいと願っています。どこまでも、どこまでも可愛い長町中学校の生徒一人一人が、教職員と一緒に笑い合い、走り回り、歌い合い、歓声を上げ、明るく思い切り何にも遠慮せずに大きな声で喜び合える、そんな日々がきてほしい、それだけが願いです。

保護者の皆さま、お世話になりました。この3年間で頂戴いたしましたご恩に報いられるように過ごしていきます。3年間、最高に幸せな日々でした。生涯忘れられない日々となりました。「生きていてよかった・・」正直な気持ちです。お別れの時がきてしまいました。とても寂しいです。皆様、どうぞお元気でお過ごしください。心より感謝申し上げます、お別れとさせていただきます。